

国家公務員給与削減措置の地方波及につながる勧告をしないこと

五者共闘 人事委員会要求交渉



交渉する五者代表

香教組は、5月16日、公務五者共闘（香教組、高教組、日教組香川、県職労、自治労県本部）で県人事委員会と交渉を行いました。

人事院勧告を無視して国家公務員給与の大幅削減が強行された上に、退職手当の引き下げに向けた検討が行われるなど、公務労働者の生活と権利に大きな攻撃が加えられている現状を訴え、公務労働者の生活実態と要求を十分に反映した勧告を行うよう強く要求しました。

公務五者は、8年も続く県独自力カットの中、さらなる国家公務員給与削減措置の地方波及につながる勧告をしないよう、県独自力カットの即刻中止とともに強く求めましたが、明確な回答はありませんでした。

多忙化解消について、県職労からは、「人員削減により、グループ制がなくなり、若い人が主として仕事をできるようにした。責任の度合いが高まり、相談しようとしても担当が違うので相談できず、精神疾患が増えつつある」と発言がありました。

香教組からは、「若い人だけでなく、退職平均年齢が50過ぎで10年残して止めていく人が多い。精神的にも肉体的にもきつい。毎日2時間以上残業し、持ち帰り仕事ができなく土日学校へ行っている」と学校の現状を話し、「業務見直しは効果が出ない。人を増やす以外方法はない」と発言しました。

人事委員会からは、「IT化をすれば長時間労働を解消できる」と答えると、五者から、「もうIT化はほとんどできている。人を減らして、

香川教育

発行所
高松市田村町1033-3
TEL(087)867-4797
FAX(087)867-6446
香川県教職員組合
定価 1部50円 1月100円
組合員の購読料は組合費に含む

香教組ホームページ
http://www.niji.or.jp/home/kakyoso/homepage

満期調べにご協力をお願いします

自動車保険満期調べにご協力下さった方へ、全教自動車保険の資料と「なるぞう一筆箋」をお送りします。

- 3/15 「国家公務員給与臨時特例法に係る要請書」を人事委員会へ
- 3/16 「国家公務員に連動した賃金引き下げは行わないことを求める要求書」を県教委へ、香教組は高教組とともに提出しています。



消費税率増税阻止、TPP参加反対、公務員賃金改善、最賃引き上げ

夏季闘争勝利 中央行動

全労連と国民春闘共闘は25日、消費税増税法案の廃案や原簿ゼロ、最低賃金の大幅引き上げなど国民的な諸要求を掲げ、東京・霞が関で5・25中央行動にとりくみました。約1500人が参加し、「安心して働き暮らせる社会の実現を」と集会・デモ、省庁要請などを繰り広げました。

主な要求内容

国家公務員給与カットと同じような給与カットをしないこと
県独自賃金カット・諸手当削減の中止
地域手当の全県一律支給
現給保障の堅持、中高年齢層給与の引き下げを行わないこと
適正な職員数の規模の検証を行わせること
高齢期雇用に係る制度設計にあたっては、次の点を制度に反映させること

- 希望者全員の雇用を確保すること
- 60歳以上は定数外とすること
- 人件費抑制と絡めての制度設計としないこと

業務が増え、大変なことになった」と現場の状況を伝えました。

定年延長について、高教組から、「二人で一人と定数内でカウントすると、新規採用者に影響する。定数外でカウントすること。定年延長で給与が7割でもひどいと思っていたが、再任用になると、給与が半分ぐらいになる。やっていけない」と発言がありました。

気分爽快

地教委は最初は管理職をかばうような発言をしていたが、県教委の作った啓発資料を示しての説明には反論できなくなり、管理職を指導すると約束した。それからは、管理職からのパワハラがなくなつたということだ。この話を聞いた組合員は職場に啓発資料をおいて、直ぐ使えるようにしたいと言っていた。学校によつては、一人一人に配つたところもある。回覧しただけのところもある。私たちの身を守るのに役立つお守りと思つて、持っておきましょう。また、記録を付けておくことも大事。仕事時間とともに、ハラスメントに関わる言動も記録しておきましょう。

黒板

2月に「ハラスメントのない快適な職場づくり」（啓発資料）が県教委から出されたことは、香川教育4月30日号で紹介したが、早速、啓発資料を活用し、効果があったと喜びの声が上がったので紹介したい。当番は7時30分までに来ることになっているはずなのに、もつと早く来なさいと言われてたこと。持ち帰り仕事をしていきますかと言われたことなどの発言の記録と「ハラスメントのない快適な職場づくり」（啓発資料）を持って地教委へ行き、啓発資料に書かれているところを示しながら、管理職によるパワハラを説明し

香教組「教育講座」開催

困っている人 よっといで 一人で悩まないで みんなで考えよう



小早川先生

2004年、2006年に3人の新採教諭が自殺した。3人の自殺に共通しているのが現場からの一言がぐさつとつきさつたのが原因である。お互いの話をじっくり聞くゆとりがないといけない。授業に出ていない生徒から「先生、ひま」と言われると、どんなに忙しくても「ものすくひま」と言っ

聞いて直ぐやれるという話ではない、人間性にかかっていると話が始まりました。服装など管理的にきちつとした子どもに育てる。こうあらねばならないからの脱却が大事。自分のやりたい実践、自分の思いで教育ができることほど幸せなことはない。

教師の仕事

どんな生徒に育てたいのか 講師 小早川加代子先生

5月19日、サンメッセ香川 中会議室において、香教組「教育講座」が行われました。前半は、講師にもと香教組副委員長の小早川加代子先生を迎えて、「どんな生徒に育てたいのか」を演題に講演。後半は、グループに分かれて、若い人が学校での悩みを出し、みんなで考える「学びのフリーマーケット」を行いました。

生徒との関係づくり

生徒らの話に付き合っ。そんな先生を生徒らはよく見ている。

静かに聞かせる方法、「先生が話すのを途中でやめたときは誰かがしゃべっているか、聞いていないときだから、分からないように教えてあげて」と言っ。注意してくれたらありがたい。許せないものは許さない。

学年はじめの団集会で20分過ぎに騒がしくなり始めた。「みんなの力を見せてもらおう。声が大きいと聞いている。野球部のキャプテン、言いたいことを一言どっぞ」と言っ、言っ

学校図書館への学校司書の配置促進についての申し入れ

中学校・保健体育における武道必修に関する要請書

医師の面接指導制度化に関する要請書

香教組は、県内市町教委に学校司書配置促進についての申し入れと中学校・保健体育における武道必修に関する要請書、医師の面接指導制度化に関する要請書を届けました。

学校司書については、2012年度政府予算に、小中学校の学校図書館担当職員の配置のための予算150億円が地方財政措置に新たに含まれました。学校図書館担当職員の配置について、「週30時間の職員を2校に1名程度配置することが可能な規模」を交付金として各自治体に措置することとなっています。交付金が確実に学校司書配置に活用されるよう申し入れます。

武道必修化については、今年度4月から必修となった武道の施設・設備の準備や指導者の確保についての課題など多くの不安を解消するための要請です。

医師の面接指導制度化については、教職員の健康破壊を生み出す多忙な職場の実態を改善していくための要請です。

第2回パワーアップ学習会

6月9日(土)
9:30~12:00
(9:10 受付)

高松テルサ 大会議室
資料代 300円



採用試験勉強会

県内3カ所で実施

高松(香教組) 19:00~ 6/12(火) 6/26(火)
三豊(三豊教育会館) 19:00~ 6/4(月) 6/18(月)
丸亀(市民会館) 19:00~ 6/6(水) 6/20(水)

親との関係づくり

上から目線で、こうであらねばならない要求をされると、「わかっとなるわ。学校でしてくださ」となる。親の悩みを前提に聞く。親と仲良くすることは、子どもと付き合う大前提。いいことで電話することが多い。つっぱり生徒の所には毎日家庭訪問。共感しながら、私がこうします

目取後に

一、目置かれる教師になれ。どういいう授業。どういいう生徒指導するのか。

生徒を指導するには、覚悟が必要。途中で逃げない。私らが何とかする。生徒が助けてくれる。一人の人間として生徒目線で尊重しながら付き合える。

学びのフリーマーケット

青年教員から、しつけ方、学年主任との関係づくり、家庭の問題にどこまで関われるのかなど質問が出され、ベテラン教員が考えを述べていきました。